

「いちハーブアンサンブル」愛生苑を訪問！

懐かしい方たちにもお会いできました。車椅子でのご参加も多く、楽しんでいただきました。



乙女の祈り、白鳥の湖、森へ行きましよう、テネシーワルツ、ラストダンスは私と、日曜はだめよ、翼を下さい他、沢山の曲目を楽しみました！

《リーフアート展示会》



《11月歩こう会》

雲一つない秋晴れのもと、鶴牧のメタセコイヤ通り、団地内のモミジバフウ、いちよう並木と色とりどりの紅葉を楽しんできました。暖かい日差しをあびながら西公園でのお弁当は最高でした。



《創作川柳》 十一月投句より

あわただしく秋が過ぎ去り、真冬並みの北風が吹き荒れる昨今、私たちを取りまく状況は少しも向上せず、毎日のように日本で、世界で痛ましく悲しい事件が勃発しています。今年もあと一ヶ月。世相を切り取って今回も八句の川柳が寄せられました。次回十二月もよろしくお願ひします。

- ・ 死の先に見えるものあり 詩人逝く (流 風)
- ・ 身にしむやへぼと言われて 碁に負けて (迷 楽)
- ・ 誤登録保険証では許されまい (脱 兎)
- ・ この賀状出さぬか悩む暮 (迷 夢)
- ・ 本屋さん宇宙探検星探す (流 風)
- ・ 秋の暮釣りバカ逝きてさびしけり (迷 楽)
- ・ 春が過ぎ夏秋はコミ冬間近か (脱 兎)
- ・ いつの日か出てくる期待大谷賞 (迷 夢)

- ・ 立冬や施設入所の便り来る (知 香)
- ・ 学び舎の白壁描く 蔦紅葉 (一 啓)
- ・ 鳥たちのほしいままなる 残り柿 (操 子)
- ・ 知らずして今朝の寒さや昨日今日 (忠 夫)
- ・ いちようの実 拾わず見あく黄金色 (むつみ)
- ・ 秋更くる山里の夫一人酒 (美恵子)
- ・ 秋の暮テニスコート最終戦 (亨)
- ・ 今朝の冬樟脳の人乗り合わせ (操 子)
- ・ 初冬にエンドレスでシヨパン聞く (節 子)
- ・ 木の実落つ音を探して散歩道 (知 香)
- ・ 秋の昼 袂を別かつ友いづく (美恵子)
- ・ 朝の水 吸って香りを放つ菊 (満利子)
- ・ 冷やし世に試案一刻秋深し (一 啓)
- ・ 濡れ落葉隙間なき坂一歩づつ (操 子)
- ・ 目を閉じて色なき秋の香(こ)うさがす (真理子)
- ・ 氷上にシユプール描く乱舞かな (忠 夫)
- ・ 雨上がり落ち葉の多さからみつく (節 子)
- ・ 町端(まちはな)の琴の音沈む秋湿り (美恵子)
- ・ 自然薯は とろとろとろと旨し味 (むつみ)
- ・ 初霜や膝関節の痛み増す (節 子)

歳時記では、立秋から立冬の前の日までを秋とする。太陽暦では九月、十月、十一月。天文学では秋分から冬至までと明示されています。夏から秋、秋から冬の季節の変化が最近はどうもあいまいで俳句を詠むのに苦勞をします。自然界の危機!! 十二月の句会は九日です。お待ちしております。